

三陸復興国立公園の動き

- 2011.3 東日本大震災
- 2012.5 グリーン復興プロジェクト
(新たな国立公園や長距離自然歩道の創設など)
- 2013.5 三陸復興国立公園指定
- 2019.6 みちのく潮風トレイル全線開通

最近の社会条件の変化

- 防潮堤の整備や三陸沿岸道の開通などインフラ整備が進む
- 新型コロナウイルス感染拡大による公園利用者の減少、観光産業の減退



三陸復興国立公園の公園利用者数の推移



三陸復興公園満喫プロジェクトの背景

国立公園満喫プロジェクトの2021年以降の取組方針

- ✓ ウイズ/ポストコロナ
- ✓ 底上げと水平展開(ロングトレイルの資源活用含む)
- ✓ 基本的な視点の継続重視

三陸復興国立公園の課題

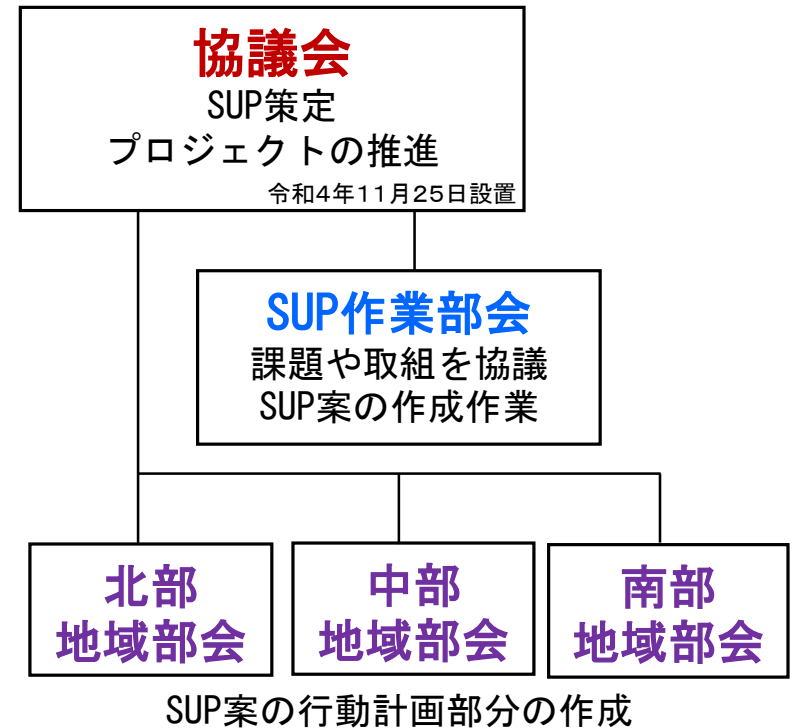
- ✓ コロナ禍により観光情勢が激変し地域経済が低迷
- ✓ 知名度の低さ、二次交通やガイドの不足、眺望悪化等に加え、ビジョンや目的が明確でないことが課題



江崎委員の現地視察



ワークショップの様子



- 国の地方機関・県・市町村・観光協会・地域連携DMO・交通事業者などで構成
- 令和4年度は協議会2回と作業部会3回
- 作業部会は対面及びオンラインのワークショップ方式で行い、コンセプトの方向性や取組方針を協議
- 江崎委員からの現地視察や助言

コンセプトの方向性

- 南北に長い海岸線という国立公園の特徴を活かす
- 交通手段や移動の楽しみ方の多様さを活かす
- 南北を「一本の旅路」にすることで、各地域に潜む魅力を引き出す
- 地域間の連携(つながり)を強くする

取組方針

- エリアをつなぐストーリーの提案
- ストーリーを彩るコンテンツの磨き上げ
- 多様な連携による魅力づくりや誘客プロモーションの実施
- 快適性や利便性の向上
- ウィズコロナ時代の多様なニーズに応じたサービスの提供
- 自然と調和し地元還元される「持続可能な観光」の実現

R5年度の予定

- 地域部会(北部・中部・南部)→各2回
3つの地域毎に現状と課題を深く掘り下げ、公園全体として掲げるテーマのもと、目標の達成に向けた取組を検討する
- SUP作成作業部会→2回
地域毎の特徴を活かし南北につなげる取組を含めたSUP案を作成する
- 推進協議会→2回
SUP案を精査し、策定のうえ、その計画内容を推進する



・遊覧船
・漁船クルーズ
・離島連絡船

